

第3次備前市総合計画の後期計画及び

第3期備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定における新たな視点
～地域幸福度の指標を使って“まちづくり”の方向性を探る～

1 デジタル化の目指すもの

デジタル田園都市国家構想で目指すもの

- 政府は、地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市国家」を構想しています。

例えば、本市では、スマートフォンの配布、地域電子ポイントの仕組み、デジタル教科書の導入、水道検診のスマートメーター、スマート窓口サービスなど様々なデジタル化を展開

デジタル化は市民の暮らしやすさ、幸福感の向上につながっているのか

デジタル化を含むまちづくりがもたらす暮らしやすさ、幸福感の状態を
目に見えるかたちにすることで、より良い取組につなげる

2 Well-being（ウェルビーイング：地域幸福度）とは

直訳すると、Well＝よい ＋ being＝状態 →よい状態

厚生労働省では、「ウェルビーイングとは個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念」と説明している。

このウェルビーイングの概念を「暮らしやすさ」や「幸福感」を表す「**地域幸福度**」として、具体的な数字で目に見える形（→指標）とすることで、これからのデジタル化を含むまちづくり全体の政策検証・立案につなげることができる。

地域幸福度(Well-Being)指標の開発起点と狙い

- 地域幸福度(Well-Being)指標とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです。
- 過去10年ほどのスマートシティの歴史では、個々の事業のデジタル化の手法やインフラの議論に偏りがちでした。しかし本来は、市民の幸福感つまりWell-beingの向上に向けた取り組みとなるべきです。
- 市民一人ひとりが、デジタル化・スマート化は自分にとってどういう意味があるかを理解する為にも、デジタル化・スマート化に伴う心豊かな暮らしの変化を可視化することに意義があります。

3 地域幸福度（Well-being）指標の仕組み

地域幸福度(Well-Being)指標の導入目的

■ 地域幸福度(Well-Being)指標の開発・導入目的は以下の6つです。

- **スマートシティ・まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化**
 - デジタルやデータではなく、市民の幸福度（Well-being）の向上に向けてスマートシティ・街づくりを始める
- **市民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福度（Well-being）」を数値化・可視化**
 - 行政、企業からではなく、市民の視点に立ちスマートシティが市民の暮らしやすさや幸福度に繋がっているか、を確認しながら進める
- **ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出**
 - 都市の個性を更に磨く気付きの材料となり、それぞれの都市の特徴をグラフの形や数値から捉えることができる
- **WHO等の国際的な枠組みを導入**
 - 世界的な基準と整合させた枠組みを導入し、日本のガラパゴス化を回避する
- **客観と主観データの両方を活用。無料でオープン化**
 - 基礎自治体毎の客観的に測定できるデータと市民の主観によるアンケートデータの両方を無料で利用できる
- **まちづくりのEBPM・ワイズスペンディングに役立てる**
 - データ(根拠)に基づいた政策立案・検証や、政策効果が乏しい歳出から政策効果の高い歳出への転換に活用できる

- 指標は、24のカテゴリで構成され、「客観指標」と「主観指標」で数値化
- 客観指標は、地域の生活環境や暮らしやすさを偏差値化（国のデータを活用）
- 主観指標は、住民意識を各自治体がアンケート調査で収集・分析

カテゴリ名称		
生活環境（16）		地域の人間関係（2）
医療・福祉	公共空間	地域とのつながり
買物・飲食	都市景観	多様性と寛容性
住宅環境	自然景観	自分らしい生き方（6）
移動・交通	自然の恵み	自己効力感
遊び・娯楽	環境共生	健康状態
子育て	自然災害	文化・芸術
初等・中等教育	事故・犯罪	教育機会の豊かさ
地域行政		雇用・所得
デジタル生活		事業創造

主観（ウェルビーイング）評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度（4）				
■ 現在、あなたはどの程度幸せですか？ ■ 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？ ■ 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。 ■ 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う				
生活環境（16）		地域の人間関係（2）	自分らしい生き方（6）	
医療・福祉（2） ■ 医療機関が充実している（利便性） ■ 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	子育て（2） ■ 子育て支援・補助が手厚い ■ 子どもたちがいきいきと暮らせる 初等・中等教育（2） ■ 教育環境（小中高校）が整っている ■ 通学しやすい場所に学校がある 地域行政（2） ■ 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている（地域行政）（社会関係資本） ■ 公共施設は使い勝手良く便利である（利便性） デジタル生活（2） ■ 行政サービスのデジタル化が進んでいる ■ 仕事や日常生活の中でデジタルサービスを利用しやすい 公共空間（2） ■ 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい（相性） ■ まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	都市景観（1） ■ 自慢できる都市景観がある 自然景観（1） ■ 自慢できる自然景観がある 自然の恵み（2） ■ 身近に自然を感じることができる（自然） ■ 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（自然） 環境共生（1） ■ リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである 自然災害（1） ■ 暮らしている地域では、防災対策がしっかりとっている。 事故・犯罪（2） ■ 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい ■ 歩道や信号が整備されていて安心である	地域とのつながり（5） ■ 私は同じ町内に住む人たちを信頼している（社会関係資本） ■ 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである（社会関係資本） ■ 困ったときに相談できる人が身近にいる（つながり・感謝）（社会関係資本） ■ 町内の人が困っていたら手助けする（向社会的行動） ■ このまちに愛着を持っている（一体感） 多様性と寛容性（5） ■ 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある（異質性・多様性） ■ 私は見知らぬ他者であっても信頼する（異質性・多様性）（過干渉・不寛容） ■ 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる（一体感）（過干渉・不寛容） ■ 女性が活躍しやすい ■ 若者が活躍しやすい	自己効力感（1） ■ 自分のことを好ましく感じる（一体感） 健康状態（2） ■ 身体的に健康な状態である（健康）（地域の幸福） ■ 精神的に健康な状態である（健康）（地域の幸福） 文化・芸術（2） ■ 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい（ダイナミズム・誇り） ■ 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（多世代共創） 教育機会の豊かさ（1） ■ 学びたいことを学べる機会がある 雇用・所得（2） ■ やりたい仕事を見つけやすい ■ 適切な収入を得るための機会がある 事業創造（1） ■ 新たなことに挑戦・成長するための機会がある（ダイナミズム・誇り）（モチベーション）

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ

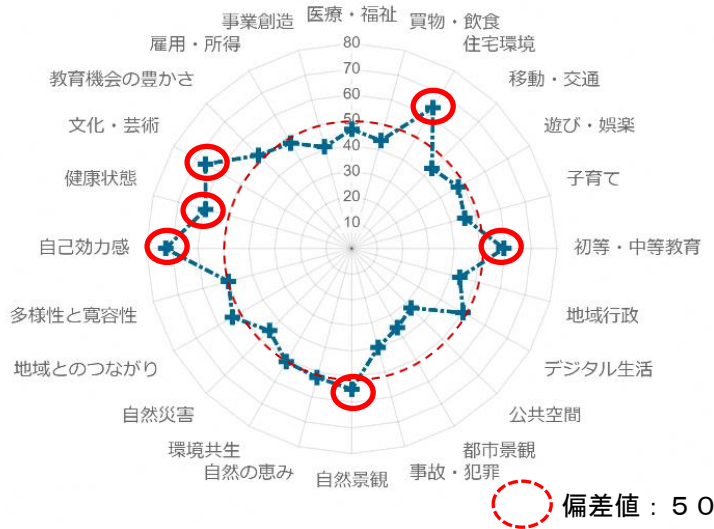
生活環境（16）			
医療・福祉 ■ 医療施設徒歩圏人口カバー率 ■ 医療施設徒歩圏平均人口密度（-） ■ 人口あたり国保医療費（-） ■ 人口あたり後期高齢者医療費（-） ■ 特定健康診断受診率 ■ 福祉施設徒歩圏人口カバー率 ■ 福祉施設徒歩圏平均人口密度（-） ■ 人口あたり児童福祉施設数 ■ 人口あたり障害者施設施設数 ■ 人口あたり福祉サービス利用回数	遊び・娯楽 ■ 人口あたり娯楽施設（映画館、劇場、スポーツ施設等）の座席数 子育て ■ 保育所まで1km未満の住宅割合 ■ 可住地面積あたり幼稚園数 ■ 施設あたり幼稚園児数（-） ■ 人口あたり待機児童数（-） ■ 産出総額における教育費の構成比 ■ 合計特殊出生率 初等・中等教育 ■ 可住地面積あたり小学校数 ■ 可住地面積あたり中学校数 ■ 可住地面積あたり高等学校数 ■ 施設あたり小学生数（-） ■ 施設あたり中学生数（-） ■ 施設あたり高校生数（-） 地域行政 ■ 人口あたり体育施設利用者数 ■ 人口あたり図書館借出数 ■ 人口あたり博物館入館者数 ■ 地域財政指数 デジタル生活 ■ 自治体DX指数 ■ デジタル政策指数 ■ デジタル生活指数	公共空間 ■ 公園緑地徒歩圏人口カバー率 ■ 人口あたり公園の面積 ■ 歩道設置率 ■ ウォーカブル指数 都市景観 ■ 都市景観指数 自然景観 ■ 自然景観指数 自然の恵み ■ 食料生産ポテンシャル ■ 水供給ポテンシャル ■ 木材供給ポテンシャル ■ 炭素吸収量 ■ 蒸発散量 ■ 地下水涵養量 ■ 土壌流出防止量 ■ 窒素除去量 ■ リン酸除去量 ■ NO2吸収量 ■ SO2吸収量 ■ 洪水調整量 ■ 表層崩壊からの安全率 ■ 緑地へのアクセス度 ■ 水域へのアクセス度 ■ オートキャンプ場への立地	環境共生 ■ NOx平均値（-） ■ PM2.5年平均値（-） ■ コミのサイクル率 ■ 人口あたり年間CO2排出量（-） ■ 人口あたり再生可能エネルギー発電量 ■ 環境政策指数 自然災害 ■ 外水氾濫危険度 ■ 高潮危険度 ■ 土砂災害危険度 ■ 地震動危険度 ■ 津波危険度 ■ ハード対策 ■ 避難・救助 ■ 要配慮者支援 ■ 防災教育 ■ 防災まちづくり ■ 情報・デジタル防災 事故・犯罪 ■ 人口あたり交通事故件数*（-） ■ 人口あたり刑法犯認知件数*（-） ■ 空家率（-）

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
（-）のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ

地域の人間関係（2）	自分らしい生き方（6）
地域とのつながり ■ 人口あたり自殺者数（-） ■ 拡大家族世帯割合 ■ 既婚者の割合 ■ 高齢単身世帯の割合（-） ■ 居住期間が20年以上の人口の割合 ■ 祭り開催数 ■ 自治会・町内会加入率* ■ 人口あたり政治団体等の数 ■ 人口あたり宗教の事業所数 ■ 人口あたりNPOの数 ■ 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数 ■ 関係人口創出活動指数 多様性と寛容性 ■ 議会における女性議員の割合 ■ 自治体の管理職職員における女性の割合 ■ 自治体職員における障害者の割合 ■ 人口あたり外国人人口 ■ 多様性政策指数	自己効力感 ■ 首長選挙投票率 ■ 市区町村議会選挙の投票率 健康状態 ■ 健康寿命（平均自立期間）（男性） ■ 健康寿命（平均自立期間）（女性） 文化・芸術 ■ 芸術家・著述家等の割合 ■ 国宝・重要文化財（建造物）の数 ■ 日本遺産の数 教育機会の豊かさ ■ 大卒・院卒者の割合 ■ 可住地面積あたり大学・短期大学数 ■ 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数 ■ 人口あたり生涯学習講座数 ■ 人口あたり生涯学習講座受講者数 ■ 人口あたり青少年教育施設利用者数 ■ 人口あたり女性教育施設利用者数 雇用・所得 ■ 完全失業率（-） ■ 若年層完全失業率（-） ■ 正規雇用者比率 ■ 高齢者有業率 ■ 高卒者進路未定者率（-） ■ 市区町村内で就業している者の割合 ■ 創業比率 ■ 納税者あたり課税対象所得 事業創造 ■ クリエイティブ産業事業所の構成比 ■ 新規設立法人の割合 ■ 従業者数あたりコワーキングスペースの数 ■ 大学発ベンチャー企業数

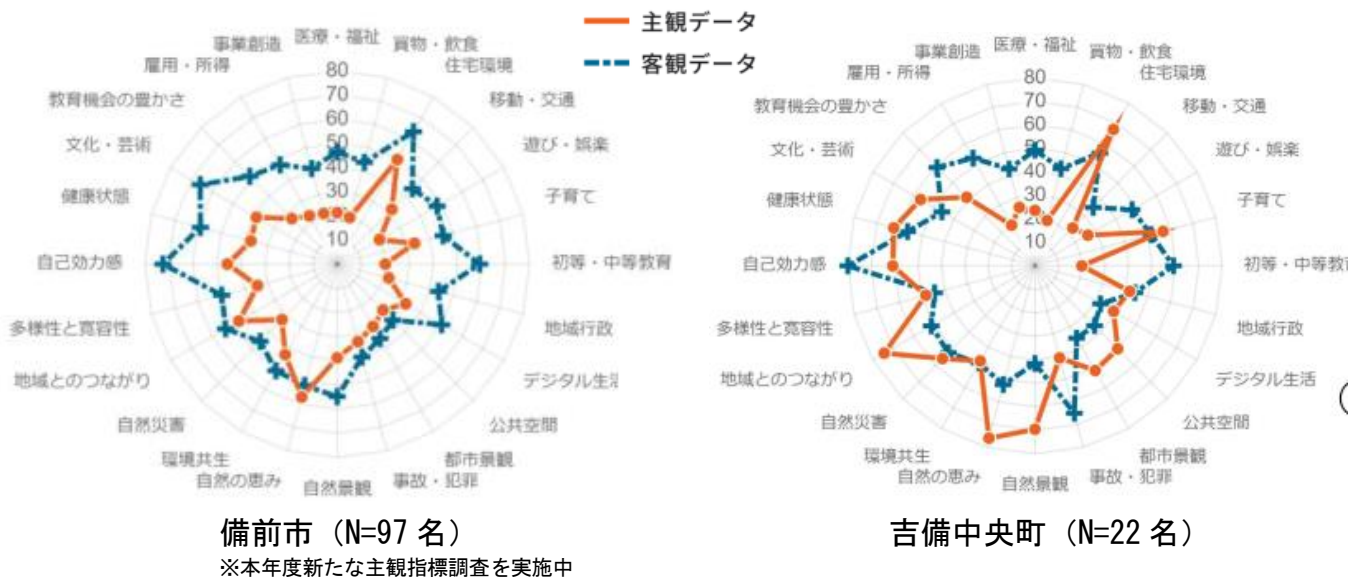
5 備前市における客観指標の結果



因子	客観	因子	客観
医療・福祉	46.5	自然景観	54.9
買物・飲食	43.6	自然の恵み	52.1
住宅環境	63.4	環境共生	51.0
移動・交通	44.2	自然災害	45.3
遊び・娯楽	48.0	地域とのつながり	53.6
子育て	45.6	多様性と寛容性	49.7
初等・中等教育	59.3	自己効力感	72.5
地域行政	43.6	健康状態	58.9
デジタル生活	50.2	文化・芸術	65.8
公共空間	32.8	教育機会の豊かさ	51.4
都市景観	35.6	雇用・所得	47.5
事故・犯罪	39.9	事業創造	41.0

- 高い偏差値：「住宅環境」、「初等・中等教育」、「自然景観」、「自己効力感」、「健康状態」、「文化・芸術」
- 低い偏差値：「医療・福祉」、「買物・飲食」、「移動・交通」、「子育て」、「地域行政」、「公共空間」、「事故・犯罪」、「都市景観」、「自然災害」、「事業創造」

6 備前市及び吉備中央町における主観指標と客観指標の重ね合わせ



7 計画策定における地域幸福度 (Well-being) 指標の活用

- 主観と客観の両面から指標を捉えることで、地域の姿を偏重することなく、強みや弱み、市民の意識差などを分析することが可能となる。
- 世代別、地域別に多角的な現状把握と課題設定による、ターゲットを絞った根拠のある取組み立案が可能となる。
- 既存の取組も主観・客観指標に結び付けることで、意義付けが明確になる。